

「平成27年度山地災害から地域を守る集い」 開催の概要

- 1 日 時 平成27年6月21日（日）
13:30～15:30
- 2 場 所 安芸高田市吉田町
安芸高田市市民文化センター
「クリスタルアージュ」
- 3 参加者 150人



○安芸高田市長あいさつ 浜田 一 義 様

(一社)広島県森林協会理事

本日はお忙しい所を、県内各地から多数の皆様のご席いただき感謝するとともに心から歓迎致します。主催者である森林協会、広島県を始め地元自主防災会など多くの関係者のご尽力を得てこの集いを開催できましたことを感謝申し上げます。

昨年度は、広島市におきまして土砂災害で多くの方が犠牲になりました。深く哀悼の意を捧げたいと思います。本市におきましても人的被害は無かったものの、市内各所で土砂災害に見舞われました。山地災害から如何に地域を守るかは大きな課題となっています。局地的な豪雨が増す中、重点施策として自主避難体制の確立に取り組むこととしていますが、防災対策を考え、適切な避難行動をとるためにも、本日の講演が大いに参考となるものと期待しています。

皆様方におかれましては、十分に理解と関心を深めて頂き大きな成果に結びつくように願っています。

◎講 演「最近の山地災害の傾向とこれからの防災対策のあり方」

国立研究開発法人 森林総合研究所 水土保持研究領域長 大丸 裕 武 様

最近の山地災害(豪雨による崩壊)の特徴は、深層崩壊の多発や集中豪雨による局所的な崩壊発生など。広島市土砂災害の現場では、谷筋の土砂が侵食を受けて土石流が発生しているように見える。これまでの被災地にみられた集団的な樹枝状の崩壊が少ないのは、森林の効果ではないか。

災害では、想定外の事が起こるため、「予測技術」と「対応能力」を磨くことが大切である。

- ① 地域のカ(コミュニケーション、郷土力) 地域に密着した研究者の地道な研究が非常に重要
- ② 災害時の初動技術
- ③ 想定外の事態への対応力(生きた知識を磨く)
- ④ 新しい技術の活用と行政における専門家の活用

航空レーザー測量データで地形判読、新しい予測技術を使い易くして現場に届ける努力

◎山地災害防止への取組事例の報告

○広島県の防災・減災対策について 広島県森林保全課治山グループ 主任 上田 公 範 様

溪間工事は、谷筋に治山ダムを設置して土砂の流れを抑え、谷を安定させる。

山腹工事は、崩壊した斜面に土留工などを設置し、斜面を安定させる。

森林整備は、枯損木などを伐採したり、木を植えたりして、健全な状態の森林に回復させる。

広島県では、昨年の広島市土砂災害のような大きな自然災害を度々受けており、土砂災害の危険箇所も全国一となっている。防災情報の入手方法として、土砂災害ポータル等を有効に活用して欲しい。

○安芸高田市自主防災組織の取組み 「上佐一心会」会長 清水 盤 様

上佐一心会では昨年度、県の自主防災組織活性化プロジェクト事業の取組をしたので報告します。
地域は安芸高田市北部の高宮町の中心部にある農村地帯であり、150世帯350名です。

昭和47年災害を契機に自主防災の取組みが始まったが、地域振興会の活動がマンネリ化しており、平成22年に安芸高田市の全市的な取組みに呼応して自主防災組織を立ち上げ、敬老会での防災講座、座談会など地域活動の中に防災の視点を取り入れて活動している。